

Kansai Economic Insight Monthly

2020/5/25

Vol.85 April/May

▼ APIR “Kansai Economic Insight Monthly”は、関西経済とそれに関連する中国経済の動向に関する分析レポートです。

▼ レポート公開時期は毎月第4週を予定しています。

▼ 執筆者は、稲田義久(甲南大学教授、APIR研究統括兼数量分析センター長)、木下祐輔(APIR調査役)、豊原法彦(関西学院大学教授)、郭秋微(APIR研究員)、野村亮輔(研究推進部員)、吉田茂一(研究推進部員)、車競飛(APIRインターン)です。

▼ 本レポートにおける「関西」は、原則として滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の2府4県です。統計出所を発表している省庁などが「近畿」としている場合も「関西」に統一しています。

目次

要旨	1
関西経済のトレンドとCI, CLI	2
景気の現況	3
関空モニター	10
中国景気モニター	11
主要月次統計	15
Release Calendar	16

要 旨

- 景気は足下悪化・先行きも悪化を見込む -

- ✓ 3月の生産は2カ月連続の前月比マイナス。足下の生産に弱さがみられることから近畿経済産業局は同月の基調判断を、「生産は緩やかな低下傾向」と前月から下方修正した。
- ✓ 4月は輸出入ともに前年比減少したが、輸入の減少幅が前月よりも縮小した。この背景には、対中輸入の7カ月ぶりの増加がある。中でもマスクと携帯が大きく寄与した。
- ✓ 4月の景気ウォッチャー現状判断DIは過去最低値を2カ月連続で更新した。これまで関西は全国を上回っていたが、この4カ月は全国よりも下回っており、景況感の急激な悪化が確認できる。
- ✓ 2月の関西2府4県の現金給与総額は名目で7カ月連続、実質では12カ月連続で前年比減少。所得環境は悪化が続いている。
- ✓ 3月の大型小売店販売額は6カ月連続の前年比減少。前月に続き、スーパーの売上は好調だったが、百貨店は訪日外客数の激減や、国内客の外出自粛と時短営業・臨時休業の実施によって過去最大の減少幅となった。
- ✓ 3月の新設住宅着工戸数は2カ月連続で前月比増加だが、小幅な伸びにとどまった。持家と貸家の増加が分譲マンションの減少と相殺され、全体では前月からほぼ横ばいとなった。
- ✓ 3月の有効求人倍率は3カ月連続で前月比悪化。新型コロナウイルス感染拡大の影響で対面型産業を中心に新規求人数が減少した。完全失業率も4カ月連続の上昇。雇用環境は悪化している。
- ✓ 3月の建設工事出来高は25カ月連続の前年比プラスだが、小幅な伸びが続いている。一方、4月の公共工事請負金額は2カ月連続の同増加となった。
- ✓ 4月の関空への外国人入国者数は401人と過去最低値となった(前年比-99.9%)。5月に入り、外国人の上陸拒否対象地域は100地域に拡大しており、今後も急速な制限の見直しは期待できない。そのため訪日外客の戻りはさらに後ずれする可能性が高い。
- ✓ 中国4月のPMIは製造業と非製造業ともに景気分岐点を上回ったものの、新規輸出受注指数は低迷している。生産活動は回復しつつある一方、消費と投資の伸びは未だにマイナスである。欧米経済の急減速により輸出市場の停滞が中国経済の下振れリスクを高めている。

【関西経済のトレンド】

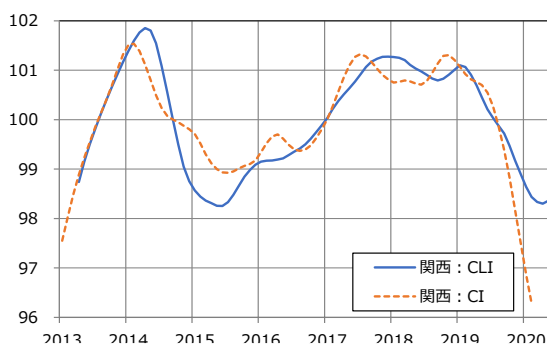
	2019年									2020年			
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
生産	↖	↖	↘	↖	↘	↖	↘	↘	↖	↖	↘	↘	
貿易	↘	↘	↗	↗	↘	↗	↖	↖	↗	↖	↖	↗	↗
センチメント	↗	↘	↗	↘	↖	↖	↘	↗	↗	↗	↘	↘	↘
消費	↗	↗	↗	↘	↗	↖	↘	↘	↘	↘	↘	↘	
住宅	↘	↘	↗	↖	↘	↘	↗	↘	↖	↘	↗	↗	
雇用	↖	↘	↘	↘	↘	↗	↘	↘	↖	↘	↘	↘	
公共工事	↗	↖	↖	↗	↖	↖	↖	↖	↗	↖	↘	↖	↖
中国	↘	↘	↗	↘	↘	↗	↘	↗	↗	↘	↘	↘	↗

（＊トレンドの判断基準）

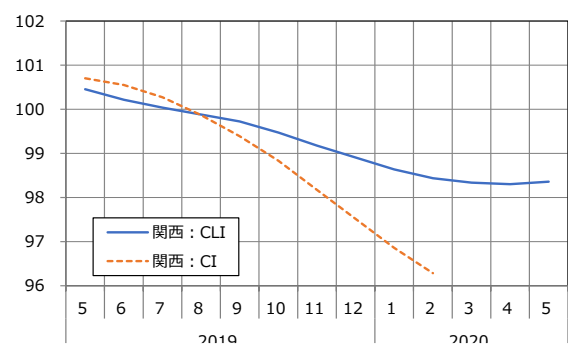
- ・ **生産**：近畿経済産業局『近畿地域鉱工業生産動向』生産指数(季節調整値)が前月比+0.5%以上であれば上向き、同-0.5%未満であれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **貿易**：大阪税関『貿易統計』の近畿圏貿易収支(入出超額)前年同月から 500 億円以上の改善は上向き、同 500 億円以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **センチメント**：内閣府『景気ウォッチャー調査』の近畿現状判断(方向性)DI が前月比で 1 ポイント以上の改善は上向き、1 ポイント以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **消費**：近畿経済産業局『大型小売店販売状況』(全店ベース)が前年同月比で 1%以上増加していれば上向き、同 1%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **住宅**：国土交通省『住宅着工統計』新設住宅着工戸数が前年同月比で 5%以上増加していれば上向き、同 5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ **雇用**：厚生労働省『一般職業紹介状況』有効求人倍率(季節調整値)が前月比で 0.01 ポイント以上の改善は上向き、変化がなければ横ばい、0.01 ポイント以上の悪化は下向きとする。
- ・ **公共工事**：西日本建設業保証株式会社『公共工事前払金保証統計』公共工事請負金額が前年同月比で 5%以上増加していれば上向き、同 5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。

【関西の景気動向指数(CI 一致指数・試作 CLI)の推移】

CI 一致指数・試作 CLI の推移(2013 年 1 月～20 年 5 月)



直近 1 年間の CI・CLI の推移(2019 年 4 月～20 年 5 月)



(注)指数は 2013 年 1 月～20 年 2 月までのデータで計算されており、新型コロナウイルスの影響は一部反映されている。

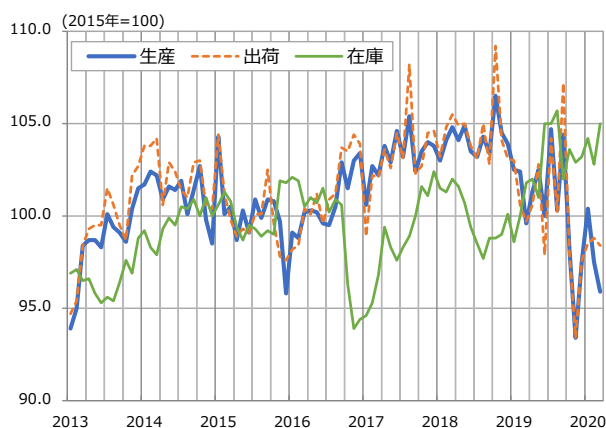
【鉱工業生産動向】

(1) 関西の生産動向

関西 3 月の鉱工業生産動向(速報値: 季節調整済、2015 年=100)を見ると、生産は 95.9 で前月比-1.6%と 2 カ月連続で低下した。足下の生産に弱さがみられることから、近畿経済産業局は基調判断を「生産は緩やかな低下傾向」と前月から下方修正した。1-3 月期は前期比+1.6%上昇し、2 四半期ぶりのプラス(10-12 月期: 同-6.6%)となった。出荷は 98.4 で前月比-0.4%と 4 カ月ぶりに低下し、在庫は 105.0 で同+2.1%と 2 カ月ぶりに上昇した。

3 月の生産指数を業種別にみると減産となったのは、電気・情報通信機械工業(前月比-11.7%、2 カ月ぶり)、金属製品工業(同-17.9%、2 カ月ぶり)、生産用機械工業(同-8.7%、4 カ月ぶり)等であった。一方、増産となったのは、汎用・業務用機械工業(同+20.7%、2 カ月ぶり)、食料品・たばこ工業(同+4.2%、2 カ月ぶり)、輸送機械工業(同+1.3%、2 カ月ぶり)等であった。なお、生産と強い関係がある日銀の実質輸出(季節調整済、2015 年=100)を見ると、3 月(確報値)は 112.7 で前月比+3.4%と 2 カ月連続のプラスとなった。

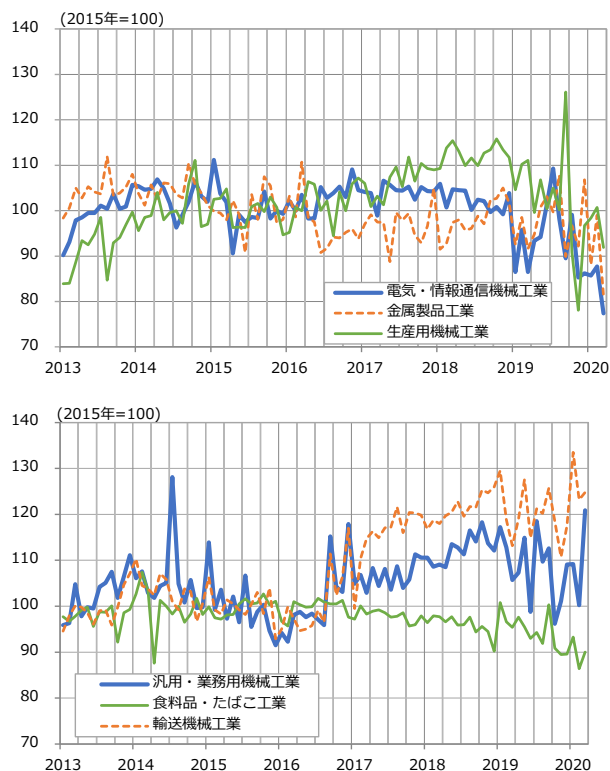
関西の鉱工業生産動向の推移(2013 年 1 月~20 年 3 月)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

関西の業種別生産指数の推移(2013 年 1 月~20 年 3 月)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

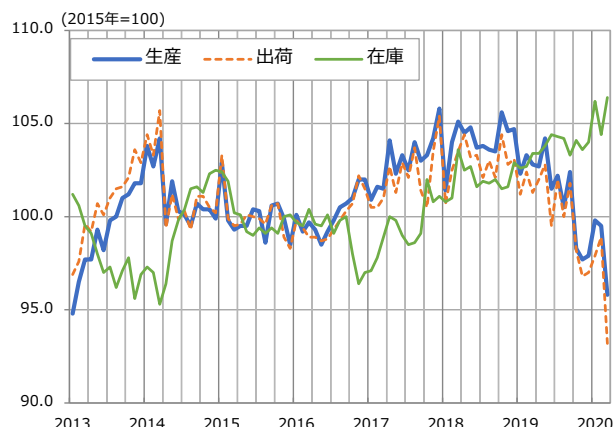
(2) 全国の生産動向

全国 3 月の鉱工業指数(確報値: 季節調整済、2015 年=100)を見ると生産は 95.8 で前月比-3.7%と 2 カ月連続で低下した。出荷は 93.2 で同-5.8%と 4 カ月ぶりの低下であった。在庫は 106.4 で同+1.9%と 2 カ月ぶりに上昇した。結果、1-3 月期の生産は前期比+0.4%と小幅上昇し、3 四半期ぶりのプラスとなった(10-12 月期: 同-3.6%)ものの、生産に弱さがみられる。

3 月の生産指数を業種別にみると減産となったのは自動車工業(前月比-5.1%)、生産用機械工業(同-10.0%)、無機・有機化学工業(同-10.9%)等であった。一方、増産となったのは、化学工業(除. 無機・有機化学工業)(同+0.1%)であった。

なお、製造工業生産予測調査(速報値ベース)によると、4 月は前月比+1.4%と増産が、5 月は同-1.4%と減産が予測されている。

全国の鉱工業指数の推移(2013年1月～20年3月)



(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

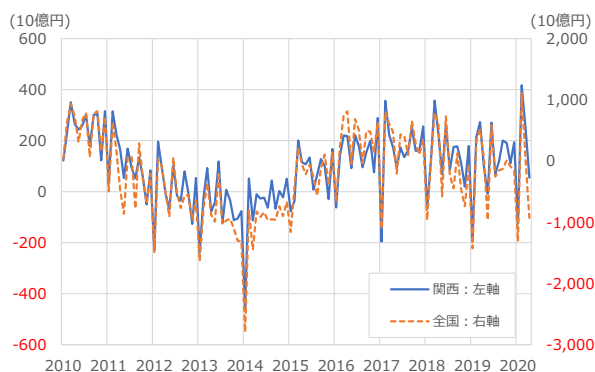
【貿易動向】

(1) 純輸出

貿易概況(速報値)によれば、関西4月の貿易収支は+547億円と3カ月連続の黒字だが、前月から黒字幅は大幅縮小している。輸出は前月と同程度の減少幅となったが、輸入の減少幅が縮小したため。しかし、輸出入の合計である貿易総額は前年同月比-3.9%と7カ月連続で減少し、昨年9月を除けば、2018年12月から連続で縮小している。

全国4月の貿易収支は-9,304億円と3カ月ぶりに赤字となった。輸出入ともに減少したが、輸入の減少幅が小幅であったため。また、貿易総額は前年同月比-14.6%と12カ月連続で縮小している。

関西・全国の貿易収支の推移(2013年1月～20年4月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

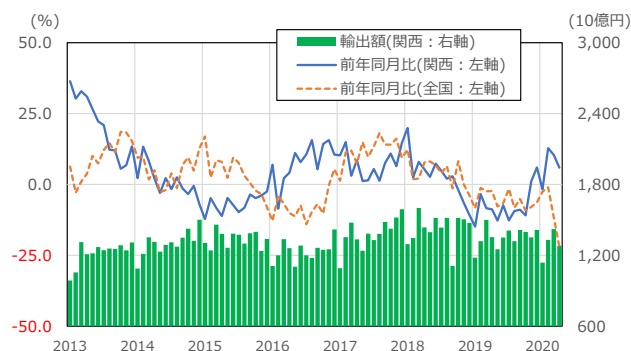
(2) 輸出

関西4月の輸出額(速報値)は1兆2,801億円で前年同月比-5.5%と2カ月連続の減少。財別にみれば、主に鉱物性燃料、建設用・鉱山用機械等が減少した。

日銀の実質輸出(季節調整値、2015年平均=100)によると、4月(速報値)は106.5で前月比-5.5%となり、3カ月ぶりのマイナスとなった。

全国4月の輸出額(速報値)は5兆2,023億円で、前年同月比-21.9%と17カ月連続の減少。財別にみれば、主に自動車、自動車の部分品、原動機等が減少した。

関西・全国の輸出の推移(2013年1月～20年4月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

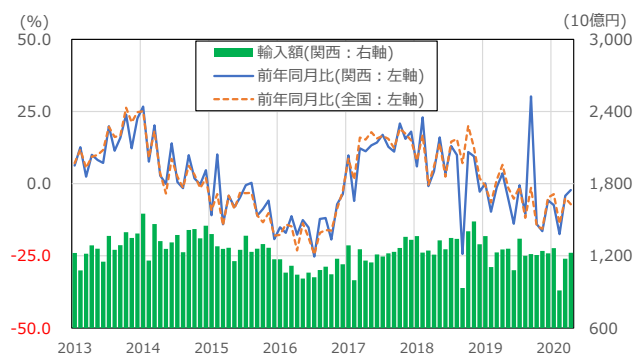
(3) 輸入

関西4月の輸入額(速報値)は1兆2,253億円で、前年同月比-2.2%減少(3月:同-4.2%)し、7カ月連続のマイナス。財別にみれば、主に原油及び粗油、天然ガス及び製造ガスが減少した。

日銀の実質輸入(季節調整値、2015年平均=100)によると、4月(速報値)は111.3となり、前月比+7.4%増加し、2カ月連続のプラスとなった。

全国4月の輸入額(速報値)は6兆1,327億円で、前年同月比-7.2%と12カ月連続の減少であった。財別にみれば、原粗油、石炭、液化天然ガス等が減少した。

関西・全国の輸入の推移(2013年1月～20年4月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

(4) 関西の地域別貿易

関西4月の貿易収支を地域別にみると、対アジア(含中国)の貿易収支は+950億円と3カ月連続の黒字となったが、黒字幅は前月(+2,789億円)から大幅に縮小した。輸出額(8,635億円)は前年同月比-1.5%と2カ月連続のマイナスとなった。財別にみれば、織物用糸及び繊維製品、鉄鋼が減少した。また、輸入額(7,685億円)は同+10.9%と7カ月連続のぶりのプラスとなった。財別にみると、主に織物用糸及び繊維製品、通信機等が増加した。

対中貿易収支は-1,460億円と2カ月連続の赤字となり、赤字幅は前月(-138億円)から拡大した。輸出額(3,312億円)は前年同月比+4.2%と2カ月ぶりのプラスとなった。財別にみると、主に半導体等電子部品、プラスチック等が増加した。輸入額(4,772億円)は同+22.1%で7カ月ぶりのプラスに転じた。財別にみると、織物用糸及び繊維製品、通信機が大幅増加した。マスクと携帯が輸入増に大きく寄与している。

対米貿易収支は+679億円の黒字となった。輸出額(1,798億円)は前年同月比-12.1%と2カ月連続のマイナス。財別にみれば、建設用・鉱山用機械、鉱物性燃料等が減少した。輸入額(1,119億円)は同-7.6%と2カ月連続のマイナス。財別にみれば、原油及び粗油、医薬品等が減少した。

対EU(英国を除く27カ国ベース)貿易収支は+12億円と3カ月連続の黒字。輸出額(1,321億円)は前年同月比-3.4%と、7カ月連続のマイナス。財別にみれば、通信機、重電機器等が

減少した。輸入額(1,309億円)は同-6.4%と、2カ月連続のマイナス。財別にみれば、たばこ、有機化合物等が減少した。

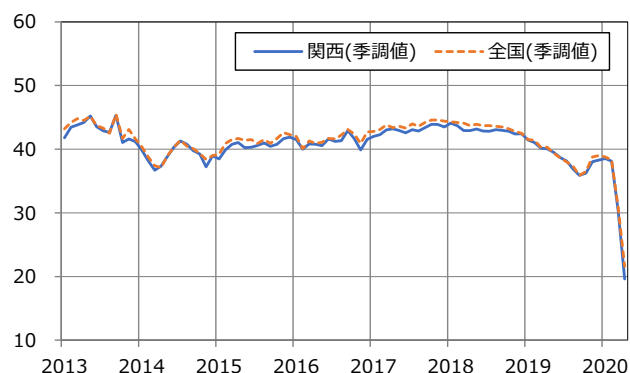
【消費者センチメント】

(1) 消費者態度指数の動向

関西4月の消費者態度指数(季節調整値:APIR推計)は19.6と前月比-10.7ポイントと3カ月連続で低下し、単月の低下幅としては過去最大となった。同指数構成項目4指標すべてが前月より低下した。雇用環境指数(12.8)は前月比-14.5ポイント(3カ月連続)、収入の増え方指数(23.6)は同-11.1ポイント(4カ月連続)、暮らし向き指数(20.0)は同-9.4ポイント(2カ月連続)、耐久消費財の買い時判断指数(22.3)は同-7.6ポイント(2カ月連続)と悪化した。

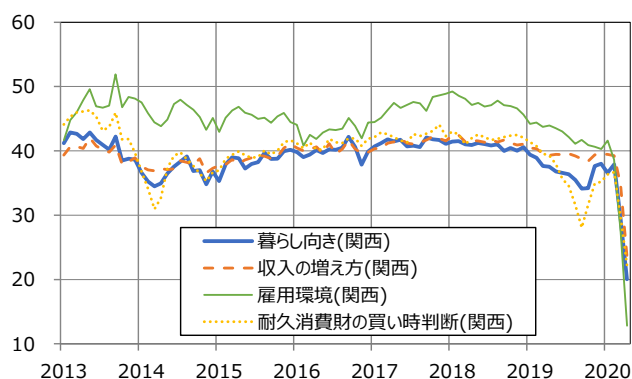
全国(季節調整値)は21.6と前月比-9.3ポイントと4カ月連続で低下した。前月の水準(30.9)から更に悪化し、過去最低値を更新した。同指数構成項目4指標すべてが前月より低下した。雇用環境指数(15.0)は前月比-12.9ポイント(3カ月連続)、収入の増え方指数(26.3)は同-8.5ポイント(4カ月連続)、暮らし向き指数(21.9)は同-8.1ポイント(4カ月連続)、耐久消費財の買い時判断指数(23.3)は同-7.7ポイント(2カ月連続)と、いずれも悪化した。結果、内閣府は基調判断を前月の「悪化している」から「急速に悪化している」と更に下回る表現とし、3カ月連続で下方修正した。今まで最も低い判断だった前月からさらに厳しい判断となった。

消費者態度指数の推移(2013年1月～20年4月)



(出所) 内閣府「消費動向調査」(次ページも同様)

消費者態度指数構成項目の推移(2013年1月～20年4月)

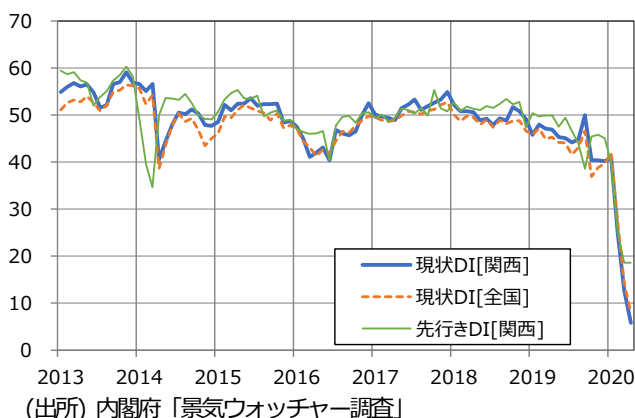


(2) 景気ウォッチャー指数の動向

関西 4 月の景気ウォッチャー現状判断 DI(季節調整値)は 5.8 と前月比-6.9 ポイントと 3 カ月連続で低下。前月(12.7)からさらに悪化し、過去最低値を 2 カ月連続で更新した。全国同指数は 7.9 と前月比-6.3 ポイント低下し、3 カ月連続で悪化した。新型コロナウイルス感染拡大を受けた緊急事態宣言発令により、百貨店や飲食店、ホテルなどが大きな影響を受けている。これまで関西の値は全国値を上回っていたが、この 4 カ月は全国よりも下回っており、景況感の急激な悪化が確認できる。

先行き判断 DI(季節調整値)は、関西で 18.6 と前月比横ばい。全国同指数は 16.6 と同-2.2 ポイント低下し 5 カ月連続で悪化した。関西・全国とも緊急事態宣言に伴う外出自粛の影響を懸念する意見がみられる他、宣言が解除されたとしても客足の持ち直しについてすぐには期待できないといった意見もみられるようである。

景気ウォッチャー調査の推移(2013年1月～20年4月)



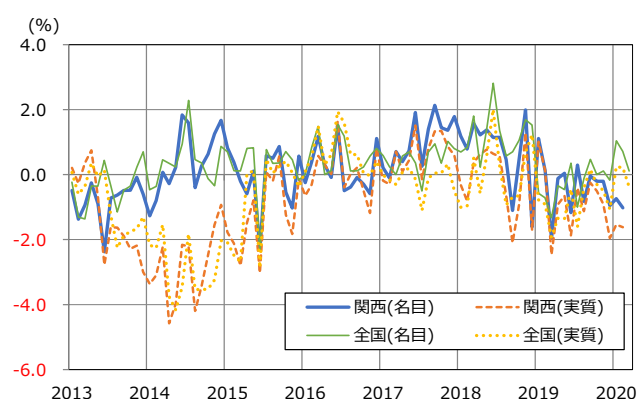
【所得・個人消費】

(1) 現金給与総額

関西 2 府 4 県の 2 月の現金給与総額(APIR 推計)は 25 万 7,448 円で前年同月比-1.0%となり、7 カ月連続の減少。府県別では、京都府は同-2.8%(3 カ月連続)、和歌山県は同-2.1%(2 カ月ぶり)、滋賀県は同-1.8%(2 カ月連続)、大阪府は同-1.1%(12 カ月連続)、兵庫県は同-0.3%(2 カ月連続)と、それぞれ減少した。一方、奈良県は同+3.4%(7 カ月連続)と増加した。また、京都・大阪・兵庫の加重平均をとった 2 月の「関西コア」賃金指数(APIR 推計)は前年同月比-1.1%と、7 カ月連続で減少した。

また、関西 2 府 4 県の現金給与総額から物価変動の影響(持家の帰属家賃を除く総合)を除いた 2 月の実質現金給与総額(実質賃金)は前年同月比-1.6%と、12 カ月連続の減少。所得環境は悪化が続いている。

現金給与総額の推移(前年同月比: 2013年1月～20年3月)



(注)関西・関西コア(京都・大阪・兵庫)は APIR 推計値。現金給与総額を当該常用労働者数(2011 年平均)で加重平均。
(出所)厚生労働省「毎月勤労統計調査」、総務省「消費者物価指数」より作成。

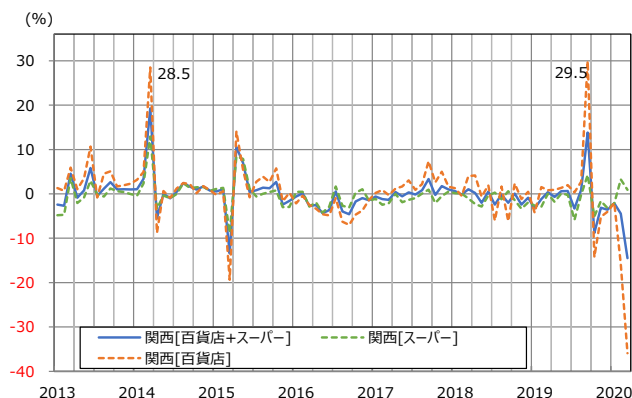
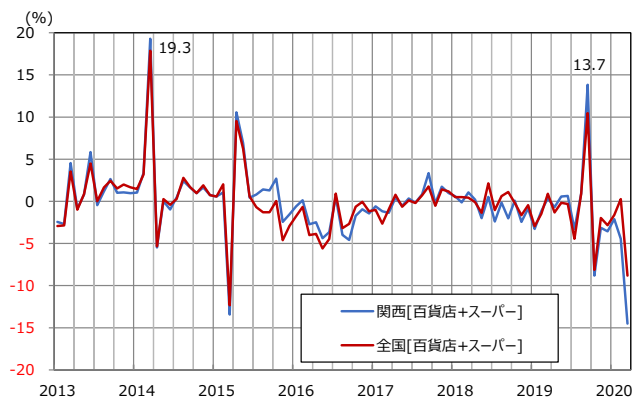
全国 3 月の現金給与総額(確報値)は、前年同月比+0.1%と 3 カ月連続の増加だが、伸びは小幅にとどまった。内訳を見ると、所定内給与は同+0.4%と 4 カ月連続の増加だが、伸びは減速している。所定外給与は同-4.0%と 7 カ月連続の減少。特別に支払われた給与は同+0.5%と 3 カ月連続の増加。また、現金給与総額から物価上昇分(持家の帰属家賃を除く総合)を除いた 3 月の実質現金給与総額(実質賃金)は同-0.3%と 3 カ月連続の減少。

月ぶりに減少した。

(2) 大型小売店販売額

関西 3 月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は 2,809 億円で、前年同月比-14.5%と 6 カ月連続の減少となった。新型コロナウイルス感染拡大により大幅なマイナスとなった。

大型小売店販売額の推移(前年同月比:2013 年 1 月~20 年 3 月)



(注) 福井県を含む。(出所) 経済産業省「商業動態統計」

うち、百貨店は前年同月比-35.9%と、6 カ月連続の減少。マイナス幅は前月(同-15.8%)を大きく上回り、過去最大となった。訪日外客数の激減に加え、国内客の外出自粛、各社が実施した営業時間短縮・臨時休業及びイベントの中止・縮小により、売上が大きく減少した。なお、4 月の関西百貨店免税売上高(日銀大阪支店)は前年同月比-98.9%大幅減少し、前月(同-92.3%)に続き、3 カ月連続のマイナス。また、件数も同-99.6%とこちらも 3 カ月連続で大幅なマイナスであった。インバウンド需要の蒸発から百貨店の売上に下押し圧力

が続こう。

一方、スーパーは前年同月比+0.9%と 2 カ月連続の増加。飲食料品(同+6.2%)と家庭用品(同+3.1%)の消費増加は全体を押し上げた。前月に続き、外出自粛による巣ごもり需要と買いだめにより売上が好調に推移した。

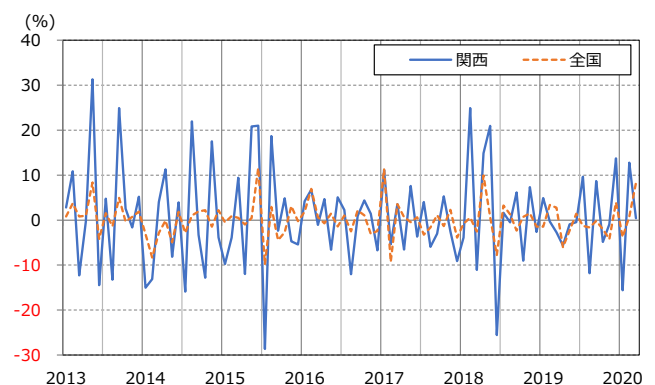
全国 3 月の大型小売店販売額(全店ベース)は 1 兆 6,204 億円で、前年同月比-8.8%と 2 カ月ぶりの減少となった。うち、百貨店は同-32.7%と大幅な減少(6 カ月連続)となったが、スーパーは同+2.5%と 2 カ月連続の増加。なお、小売業販売額指数(季節調整済)の前月比の 3 カ月後方移動平均は -0.8%と 3 カ月ぶりの低下。経済産業省は基調判断を「低下している」と前月から下方修正した。

【住宅投資】

(1) 新設住宅着工の動向

関西 3 月の新設住宅着工戸数は 11,852 戸(季節調整値: APIR 推計)で前月比+0.4%と 2 カ月連続の増加。利用関係別に見ると、持家は 3,133 戸で同+8.3%と 2 カ月連続、貸家は 4,501 戸で同+19.9%と 2 カ月ぶりに、それぞれ増加した。一方、分譲は 4,008 戸で同-16.9%と 2 カ月ぶりの減少。分譲のうち、マンションは 2,073 戸で同-28.5%と 2 カ月ぶりの減少、一戸建は 1,936 戸で同+6.4%と 2 カ月連続の増加であった。持家と貸家の増加が分譲マンションの減少と相殺され、全体で見ると前月からほぼ横ばいとなった。

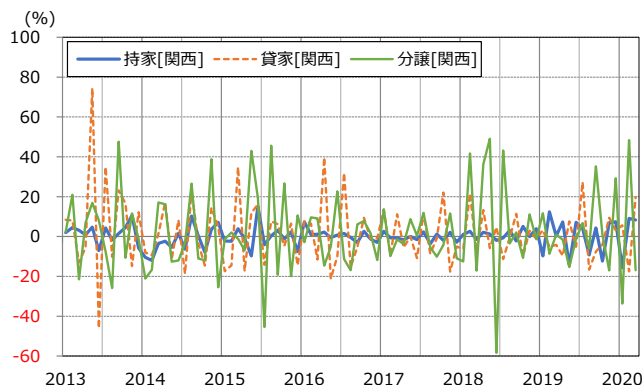
新設住宅着工戸数の推移(季節調整値、前月比: 13 年 1 月~20 年 3 月)



(出所) 国土交通省「建築着工統計」(下図も同様)

全国3月の新設住宅着工戸数は75,420戸(季節調整値)となり、前月比+3.9%と2カ月連続の増加。利用関係別に見ると、持家は24,751戸(同+6.9%)と2カ月連続、貸家は28,234戸(同+3.1%)と3カ月連続、分譲は21,798戸(同+1.3%)と2カ月連続で、いずれも増加した。

利用関係別の推移(季節調整値、前月比: 2013年1月~20年3月)

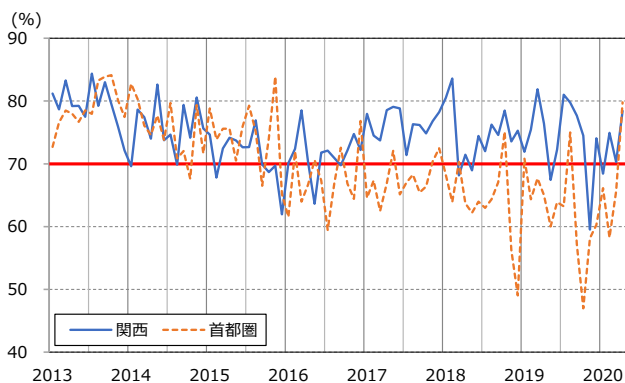


(出所) 国土交通省「建築着工統計」(下図も同様)

(2) マンション市場動向

関西4月のマンション契約率(売却戸数/発売戸数)は78.4%(季節調整値: APIR 推計)と、前月比+8.1%ポイントと2カ月ぶりに上昇した。投資用物件が好調で、好不況の境目である70%を上回った。契約率を府県別にみると(以下原数値)、和歌山県(100%)、奈良県(92.6%)、大阪市内(84.3%)、神戸市内(70.0%)は高水準であったが、滋賀県(33.3%)と京都市内(40.0%)は低水準であった。

関西・首都圏のマンション契約率の推移(2013年1月~20年4月)



(出所) 株式会社不動産経済研究所「マンション市場動向」

一方、発売戸数は494戸でバブル崩壊期の1992年8月(410戸)以来の低水準であった(前年同月比-42.0%)。新型コロナウイルス感染拡大により、モデルルームの多くが営業休止となり販売が低調だった。

同月の首都圏のマンション契約率は79.8%(季節調整値: APIR 推計)で、前月比+14.1%ポイントと2カ月連続で上昇し、好不況の境目である70%を8カ月ぶりに上回った。

【雇用動向】

(1) 求人倍率の動向

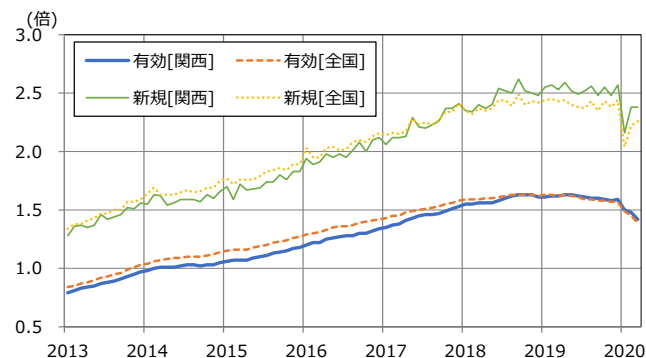
関西3月の有効求人倍率(季節調整値、受理地別)は、1.42倍で前月比-0.06ポイントと3カ月連続で悪化。2017年4月(1.41倍)以来の水準まで低下した。有効求人数は同-6.0%で3カ月連続の減少、有効求職者数は同-2.2%で2カ月連続の減少であった。

府県別に見ると、滋賀県は1.14倍で前月比-0.11ポイント、京都府は1.44倍で同-0.10ポイント、兵庫県は1.21倍で同-0.05ポイント、大阪府は1.60倍で同-0.04ポイント、奈良県は1.40倍で同-0.03ポイント、和歌山県は1.19倍で同-0.03ポイントと、いずれも3カ月連続で低下した。

また、関西3月の新規求人倍率は2.38倍で前月比横ばい。新規求人数が同-6.4%と2カ月ぶり、新規求職者数が同-6.4%と2カ月連続で、それぞれ減少した。新規求人数について産業別に寄与度をみると、その他サービス業(-2.2%ポイント)、製造業(-2.1%ポイント)、卸・小売業(-1.7%ポイント)、宿泊・飲食業(-1.2%ポイント)、運輸・郵便業(-0.8%ポイント)などでマイナス幅が大きい。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、対面型(Face to Face: F2F)産業を中心に求人数の減少が目立つ。

全国3月の有効求人倍率(季節調整値)は1.39倍で前月比-0.06ポイント低下し3カ月連続の悪化。2016年9月(1.39倍)以来の低水準であった。一方、新規求人倍率は2.26倍で同+0.04ポイント上昇し、2カ月連続で改善した。

求人倍率(受理地別)の推移(2013年1月~2020年3月)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」(下の表も同様)

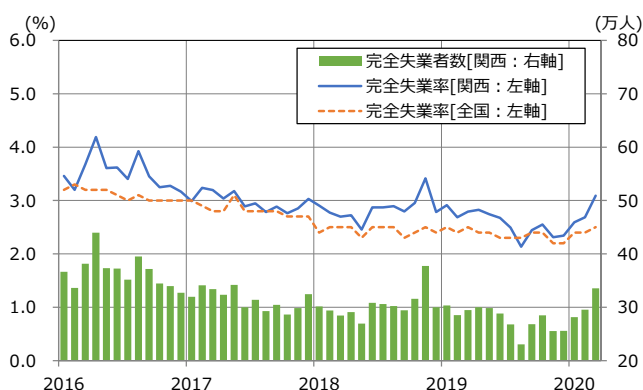
関西2府4県の有効求人倍率(2020年2月~3月)

	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
2月	1.45	1.48	1.25	1.54	1.64	1.26	1.43	1.22
3月	1.39	1.42	1.14	1.44	1.60	1.21	1.40	1.19
前月差	▲0.06	▲0.06	▲0.11	▲0.10	▲0.04	▲0.05	▲0.03	▲0.03

(2) 完全失業率の推移

関西3月の完全失業率(季節調整値: APIR 推計)は3.1%と前月比+0.4%ポイント上昇し、4カ月連続で悪化した。完全失業者数(季節調整値: APIR 推計)は33.6万人で前月差+4.0万人とこちらも4カ月連続で増加。労働力人口(季節調整値: APIR 推計)は前月差-0.8万人、就業者数(季節調整値: APIR 推計)は同-4.3万人といずれも2カ月連続で減少しており、雇用環境の悪化がみられる。

完全失業率の推移(2013年1月~2020年3月)



(出所) 総務省「労働力調査」

全国3月の完全失業率(季節調整値)は2.5%と前月比+0.1%ポイント上昇し、2カ月ぶりの悪化。完全失業者数(季節調整値)は172万人で前月差+6万人と3カ月連続で増加した。理由別では、「非自発的な離職」(45万人)は同+4

万人増加、「自発的な離職(自己都合)」(71万人)は同-2万人減少、「新たに求職」(43万人)は同+4万人増加した。

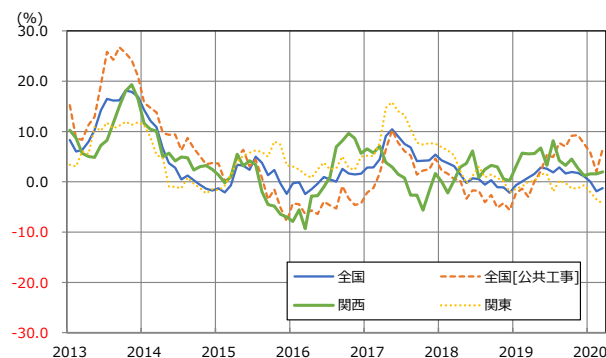
【建設工事・公共投資】

(1) 建設工事

関西3月の建設工事出来高は6,014億円で前年同月比+2.0%と25カ月連続のプラスも小幅な伸びが続いている。関東は1兆6,564億円で同-4.3%と7カ月連続で減少した。

全国3月の建設工事出来高は4兆7,311億円と、前年同月比-1.2%と2カ月連続で減少した。うち、公共工事は2兆1,160億円で同+6.6%と12カ月連続の増加となったが、民間工事は2兆6,151億円で同-6.8%と、7カ月連続で減少となった。

建設工事出来高の推移(前年同月比: 2013年1月~2020年3月)



(注) 2016年4月分より新基準に基づく出来高の参考値を反映。

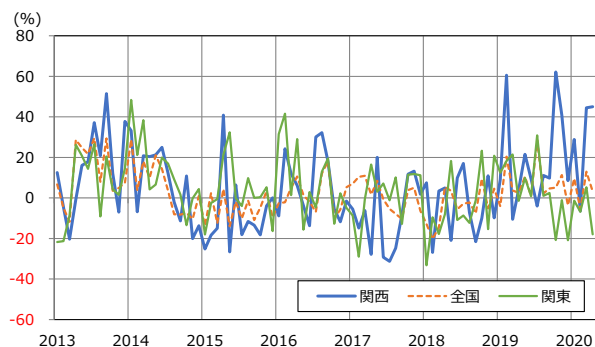
(出所) 国土交通省「建設総合統計」

(2) 公共工事請負金額

関西4月の公共工事請負金額は3,199億円で前年同月比+45.0%と、2カ月連続の増加。季節調整値(APIR 推計)で見ると前月比+11.8%と2カ月連続の増加となった。

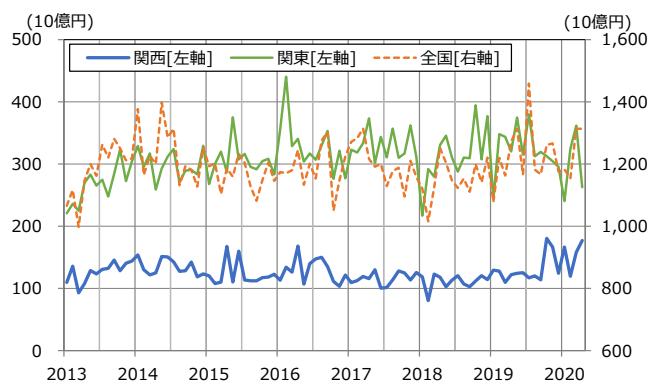
関東は4,632億円で前年同月比-17.9%と2カ月ぶりの減少。全国は2兆3,054億円で同+3.2%と2カ月連続の増加となった。季節調整値(APIR 推計)で見ると、関東は前月比-27.4%と3カ月ぶりの減少、全国は同+0.0%と2カ月連続の増加となった。

公共工事請負金額の推移(前年同月比: 2013年1月～20年4月)



(出所)東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

公共工事請負金額(季調値)の推移(2013年1月～20年4月)



(出所)東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

【関空モニター】

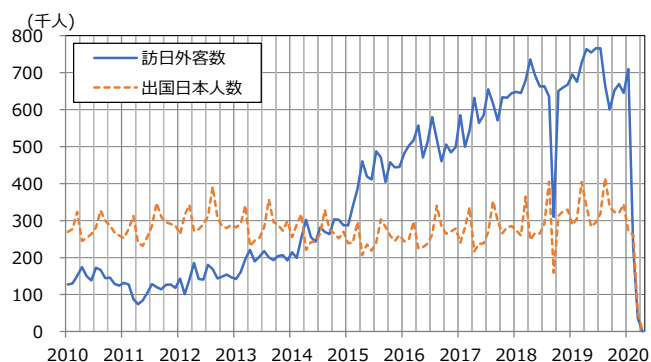
(1) 訪日外客数トレンド

4月の関空への外国人入国者数は、401人で過去最低値となった。伸びは前年同月比-99.9%減少し、前月の同-95.1%からマイナス幅はさらに拡大した。新型コロナウイルス感染拡大を受け、4月以降外国人の上陸拒否対象地域がさらに広がった影響が出たようである。なお、法務省は4月29日に外国人の上陸拒否対象地域を87地域、また5月16日には100地域に拡大した。今後対象地域の急速な緩和が期待できないため、訪日外客の戻りはさらに後ずれる可能性が高い。

また、外国人出国者数は3,739人で同-99.5%と3カ月連続の減少。結果、外国人出入国者数は4,140人で同-99.7%と3カ月連続の大幅減少となった。

日本人出国者数は321人で前年同月比-99.9%と4カ月連続で減少し、外国人入国者と同様に過去最低値となった。

訪日外客数と出国日本人数の推移(2013年1月～20年4月)

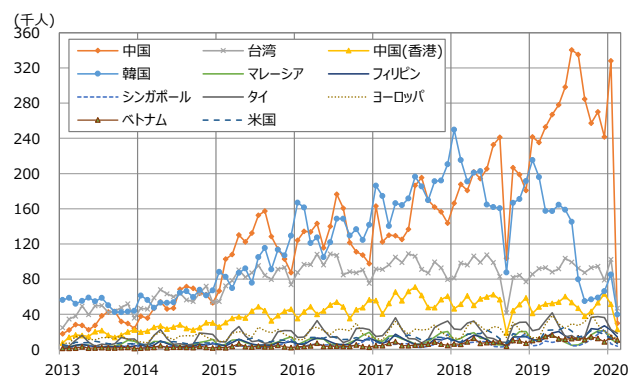


(出所)一般財団法人関西空港調査会「KANSAI 空港レビュー」

(2) 地域別訪日外客数

2月の関空訪日外客数を国籍別・地域別にみると、台湾からの入国者が4万6,899人(前年同月比-48.9%)と最多であった。2019年1月以降、13カ月連続で中国(香港除く)からの入国者が最多であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、2月は台湾が最多となった。次いで、韓国が3万9,625人(同-79.8%)、中国(香港除く)が2万9,787人(同-87.3%)、香港が2万2,705人(同-53.1%)であった。伸び率をみると、台湾は8カ月ぶり、韓国は21カ月連続、中国(香港除く)は17カ月ぶり、香港は4カ月ぶりといずれも減少。

地域別訪日外客数(2013年1月～20年2月まで)



(出所)法務省「出入国管理統計」

他のアジア各国は、タイが1万8,171人(前年同月比-20.9%)、フィリピンが1万4,066人(同+53.8%)、ベトナムが1万863人(同-5.5%)、マレーシアが7,127人(同-39.2%)、シンガポールが3,569人(同-27.7%)であった。アジア以外の地域では、欧州全体が1万2,183人(同-9.7%)、

米国が6,391人(同-29.9%)であった。

【中国景気モニター】

(1) センチメント

4月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は50.8となり、前月から-1.2%ポイント下落した。非製造業PMIは53.2となり、同+0.9%ポイント上昇し、2カ月連続の改善。

製造業PMIのうち、生産指数は53.7と前月から-0.4%ポイント下落し、2カ月ぶりの悪化。輸出新規受注指数は33.5と同-12.9%ポイント大幅下落し、4カ月連続で景気分岐点を下回った。雇用指数は50.2と2カ月連続で景気分岐点を上回った。

製造業・非製造業購買担当者景況指数(2014年1月~2020年4月)



(出所)中国国家統計局; CEIC データベース(下図も同様)

製造業購買担当者景況指数(2014年1月~2020年4月)



(2) 貿易動向

4月の貿易収支は199.0億ドルで2カ月連続の黒字となった。輸出額(速報値, ドル・ベース)は2,002.8億ドルで前年

同月比+3.5%と4カ月ぶりの増加。輸入額は1,549.4億ドルで同-13.8%と4カ月連続の減少。貿易総額(輸出+輸入)は同-4.8%と4カ月連続で縮小している。

中国の貿易動向(ドル・ベース, 2014年1月~2020年4月)



(出所)中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

【地域別貿易状況】

地域別にみると、4月の対日貿易収支は-10.9億ドルとなり、39カ月連続の赤字となった。対日輸出額は136.6億ドルとなり、前年同月比+33.0%と8カ月ぶりの増加。対日輸入額は147.4億ドルとなり、同-5.1%と2カ月ぶりの減少。なお、円ベースでみると、対日輸出額は同+28.5%と10カ月ぶりの増加。対日輸入額は同-8.3%と2カ月ぶりの減少であった。

日本との貿易(円ベース, 2014年1月~2020年4月)



(出所)中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

対韓貿易収支は-34.0億ドル(前月:-48.9億ドル)の赤字となった。対韓輸出額は101.4億ドルで前年同月比+8.4%と2カ月連続の増加。また、対韓輸入額は135.3億ドルとなり、

同-14.5%と4カ月連続の減少であった。

対米貿易収支は228.7億ドル(前月:153.3億ドル)となり、前年同月比+8.8%と10カ月ぶりの増加。対米輸出額は320.6億ドルで同+2.2%と13カ月ぶりの増加。また、対米輸入額は91.9億ドルとなり、同-11.1%と2カ月連続の減少であった。

対ASEAN貿易収支は66.0億ドル(前月:90.6億ドル)の黒字となった。対ASEAN輸出額は289.1億ドルで同+4.2%と2カ月連続の増加。また、対ASEAN輸入額は223.1億ドルとなり、同-3.7%と14カ月ぶりの減少であった。

対EU貿易収支は135.4億ドル(前月:45.0億ドル)の黒字となった。対EU輸出額は322.4億ドルで同-4.5%と4カ月連続の減少。また、対EU輸入額は187.0億ドルとなり、同-21.3%と4カ月連続で減少した。

(3) 工業生産

4月の工業生産は前月比+2.27%上昇し、伸びは前月から30.7%ポイント減速した。また、前年同月比は+3.9%となり、前月(同-1.1%)からプラスに転じた。

産業別に見ると、全ての産業で増産が見られた。その中でも、専用設備製造業(前年同月比+14.3%)、パソコン・通信設備製造業(同+11.8%)、電気機械・機械製造業(同+9.0%)などが高い伸びを示す一方、農業副食品加工業(同+3.0%)、繊維工業(同+2.0%)、電力・熱力生産・供給業(同+0.2%)などは比較的低調な伸びにとどまった。

工業生産指数(2014年1月~20年4月)



(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

(4) 固定資産投資

1-4月の累積固定資産投資(名目)は前年同期比-10.3%となり、1-3月期のマイナス幅(同-16.1%)から+5.8%ポイント改善したものの、4カ月連続の下落となった。

産業別にみると、第1次産業は前年同期比-5.4%下落し、下落幅は前月から+8.4%ポイント改善した。第2次産業は同-16.0%と下落幅は前月から+5.9%ポイント改善した。第3次産業は同-7.8%で、下落幅は前月から+5.7%ポイント改善した。

固定資産投資(産業別)累積伸び率(2014年1月~20年4月)



(出所)中国国家统计局; CEIC データベース

(5) 消費

4月の社会消費品小売総額(名目)は前年同月比-7.5%となり、前月から+8.3%ポイント改善したが、4カ月連続のマイナスであった。また、社会消費品小売総額の実質値(APIR 推計)をみると、下落幅は同-9.75%と前月から+9.6%ポイント改善した。

都市部の社会消費品小売総額は前年同月比-7.5%となり、下落幅は前月から+8.4%ポイント改善した(2カ月連続)。農村部の社会消費品小売総額は同-7.7%で下落幅は前月から+7.4%ポイント改善した(2カ月連続)。

4月の電子商取引の社会消費品小売総額は8,529.2億元で、前年同月比は+5.8%で、伸びは前月から+5.1%ポイント上昇した(2カ月連続)。

社会消費品小売総額(2014年1月~20年4月)



(出所)中国国家統計局; CEIC データベース

(6) 物価水準

4月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比+3.3%で、前月から-1.0%ポイント下落した(3カ月連続)。うち、食品価格は同+14.8%上昇し、CPIへの寄与度は+2.98%ポイントであった。食料品のうち、肉類価格の大幅上昇が続いている。豚肉価格は同+96.9%、牛肉、羊肉、鶏肉と鴨肉の価格は同+8.2%~+20.5%と、それぞれ上昇した。一方、鶏卵、果物と野菜価格は同-3.4%、同-10.5%と同-3.7%と、それぞれ下落した。

消費者物価指数・生産者物価指数(2014年1月~20年4月)



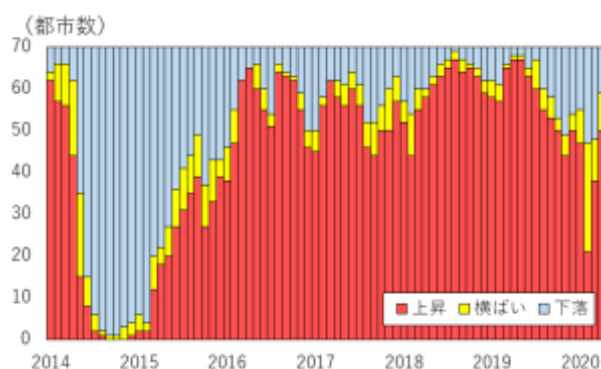
(出所)中国国家統計局; CEIC データベース

また、生産者物価指数(PPI)は、前年同月比-3.1%と3カ月連続の下落。下落幅は-1.6%ポイントと前月(同-1.1%ポイント)から拡大した。うち、生産財(生産資料)価格は同-4.5%下落し、下落幅は2.1%ポイント拡大した。消費財(生活資料)価格は同+0.9%上昇し、前月から-0.3%ポイント減速した。

(7) 不動産市場

4月の不動産市場は、引き続き回復が見られる。不動産価格(新築住宅価格)をみると、中国主要70都市のうち、住宅価格が上昇した都市数は50で前月から12都市増加した(2カ月連続)。一方、下落した都市数は11で前月から11都市減少(2カ月連続)。また、横ばいの都市数は9で前月から1都市減少した(2カ月連続)。

新築住宅価格の主要都市集計(2014年1月~20年4月)



(出所)中国国家統計局; CEIC データベース

(8) 求人倍率

2020年1-3月期の有効求人倍率は1.62倍となり、2019年10-12月期から+0.35ポイント上昇した。求人倍率を地域別に見ると、東部は1.46倍、中部は1.75倍、西部は1.84倍であった。なお、2019年7-9月期、10-12月期の地域別の有効求人倍率の統計は公表されていないことに注意。

有効求人倍率(2014年Q1~20年Q1)



(出所)中国労働市場情報観測センター; CEIC データベース

(9) 今月の中国経済レビュー

中国 4 月の幾つかの経済指標には大幅な回復が見られたものの、未だ平常時の水準の回復には至っていない。経済は再開されたものの、コロナ第 2 波に対する警戒感が景気の足を引っ張っている。

4 月 25 日まで生産稼働率が 50%を上回った企業を見ると、工業では約 85%程度、サービス業では 70%、建築業で 60%程度となっている。先行きも輸出の低迷や消費の回復が遅れる予想から、製造業と非製造業の PMI は、ともに景気分岐点を上回ったものの、持続性が懸念されている。

工業生産指数は前年同期比プラスに転じ、生産活動は着実に回復しつつある一方、消費と投資は未だに回復途上である。なお、ポストコロナにおける消費様式の変化に注目すべきである。消費が全体として低迷する中、電子商取引額の成長は加速しつつあり、シェア(24.1%)は先月より+0.5%ポイント拡大している。

国家統計局の『4 月国民経済運行状況』に関する記者会見において、「生産再開が着実に進んでおり、4 月の経済指標には中国経済の改善が見られ、経済見通しに自信を持っている」と述べた一方、「海外でコロナウイルス感染が拡大しており、中国経済の回復は依然として多くの挑戦に直面している」との見方を示している。欧米経済の急減速により輸出市場の停滞が中国経済の下振れリスクを高めている。

Contact : 木下祐輔・野村亮輔

Tel. 06-6485-7694

E-mail. contact@apir.or.jp

【主要月次統計】

月次統計	19/5M	19/6M	19/7M	19/8M	19/9M	19/10M	19/11M	19/12M	20/1M	20/2M	20/3M	20/4M
景況感												
[関西]景気ウォッチャー調査(現状DI、季節調整値)	45.1	45.0	43.8	45.3	50.4	39.9	40.2	40.2	40.9	25.1	12.7	5.8
[関西]景気ウォッチャー調査(先行き、季節調整値)	47.5	49.8	46.3	42.3	37.2	45.1	46.2	45.1	39.9	25.1	18.6	18.6
[全国]景気ウォッチャー調査(現状DI、季節調整値)	44.1	44.0	41.2	42.8	46.7	36.7	39.4	39.7	41.9	27.4	14.2	7.9
[全国]景気ウォッチャー調査(先行き、季節調整値)	45.6	45.8	44.3	39.7	36.9	43.7	45.7	45.5	41.8	24.6	18.8	16.6
消費者心理・小売												
[関西]消費者態度指数(季節調整値)	39.5	38.7	38.1	36.9	35.9	36.2	38.1	38.3	38.6	38.1	30.4	19.6
[関西]〃暮らし向き(季節調整値)	36.8	36.6	36.4	35.5	34.1	34.2	37.6	38.0	36.6	37.9	29.5	20.0
[関西]〃収入の増え方(季節調整値)	39.5	39.4	39.5	39.2	38.7	38.4	39.4	39.5	39.5	39.2	34.7	23.6
[関西]〃雇用環境(季節調整値)	43.5	43.0	42.2	41.1	41.7	40.9	40.6	40.3	41.6	38.7	27.3	12.8
[関西]〃耐久消費財の買い時判断(季節調整値)	37.9	35.7	34.6	31.6	28.1	31.6	34.9	35.2	36.3	36.7	29.8	22.3
[全国]消費者態度指数(季節調整値)	39.4	38.7	37.8	37.1	35.6	36.2	38.7	39.1	39.1	38.3	30.9	30.9
[関西]大型小売店販売額(10億円)	304.1	308.1	319.6	307.2	327.2	282.8	310.9	392.1	315.2	270.3	280.9	UN
[関西]大型小売店販売額(前年同月比%、全店)	0.4	0.5	-3.4	0.8	13.7	-8.9	-3.3	-3.7	-2.1	-4.5	-14.5	UN
[全国]大型小売店販売額(10億円)	1,563.1	1,597.7	1,624.2	1,589.7	1,671.7	1,457.7	1,610.8	2,022.8	1,606.4	1,438.7	1,620.4	UN
[全国]大型小売店販売額(前年同月比%、全店)	-0.2	-0.3	-4.5	0.9	10.4	-8.1	-2.0	-2.9	-1.6	0.3	-8.8	UN
住宅・建設												
[関西]新設住宅着工(季節調整値、戸数)	11,059	11,009	12,072	10,647	11,571	11,012	10,909	12,406	10,469	11,804	11,852	UN
[関西]新設住宅着工(季節調整値、前月比%)	-0.9	-0.5	9.7	-11.8	8.7	-4.8	-0.9	13.7	-15.6	12.8	0.4	UN
[全国]新設住宅着工(季節調整値、戸数)	76,400	76,933	75,672	75,672	75,236	74,624	70,649	70,990	67,744	72,615	75,420	UN
[全国]新設住宅着工(季節調整値、前月比%)	-2.0	0.7	-1.6	0.0	-0.6	-0.8	-5.3	0.5	-4.6	7.2	3.9	UN
[関西]マンション契約率(季節調整値)	67.4	72.3	81.0	79.8	77.7	74.5	59.5	74.1	68.4	74.9	70.3	78.4
[関西]マンション契約率(原数値)	67.7	73.3	83.1	84.9	75.7	73.8	60.1	71.0	66.8	75.3	69.2	77.9
[首都圏]マンション契約率(季節調整値)	60.0	63.9	63.2	75.0	57.2	47.0	58.2	60.3	66.1	58.3	65.6	79.8
[首都圏]マンション契約率(原数値)	60.0	65.9	67.9	75.4	56.8	42.6	55.2	61.3	63.0	59.3	70.0	78.9
[関西]公共工事前払保証額(10億円)	141.5	147.1	135.3	106.0	120.0	189.6	133.2	95.5	92.0	74.8	157.9	319.9
[関西]公共工事前払保証額(前年同月比%)	21.6	9.4	-4.0	11.1	9.8	62.2	40.7	8.6	28.9	-6.4	44.5	45.0
[全国]公共工事前払保証額(10億円)	1,420.4	1,447.9	1,609.1	1,149.3	1,275.1	1,348.0	911.0	803.8	641.5	699.4	1,487.0	2,305.4
[全国]公共工事前払保証額(前年同月比%)	10.5	1.0	28.5	2.2	4.6	5.1	11.3	-3.6	9.6	4.2	12.9	3.2
[関西]建設工事(総合、10億円)	514.7	530.2	545.8	551.7	572.4	589.7	605.5	618.0	617.6	612.3	601.4	UN
[関西]建設工事(総合、前年同月比%)	6.7	3.3	8.1	4.2	3.3	4.5	2.7	1.2	1.6	1.6	2.0	UN
[全国]建設工事(総合、10億円)	4,002.9	4,231.1	4,343.4	4,574.6	4,782.4	4,945.3	5,002.6	5,000.3	4,898.9	4,721.5	4,731.1	UN
[全国]建設工事(総合、前年同月比%)	2.8	2.6	1.9	2.9	1.6	2.0	1.8	1.1	0.04	-1.9	-1.2	UN
[全国]建設工事(公共工事、10億円)	1,410.4	1,558.4	1,616.2	1,768.8	1,954.4	2,116.0	2,182.0	2,197.1	2,166.6	2,053.4	2,116.0	UN
[全国]建設工事(公共工事、前年同月比%)	2.1	5.3	4.9	7.7	7.0	9.2	9.3	7.6	5.8	2.0	6.6	UN
生産												
[関西]鉱工業生産(季節調整値、10年=100)	102.5	100.0	104.7	100.3	104.4	98.2	93.8	97.5	100.4	97.5	95.9	UN
[関西]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	1.2	-2.4	4.7	-4.2	4.1	-5.9	-4.5	4.4	3.0	-2.9	-1.6	UN
[関西]〃出荷指数(原数値、前年同月比%)	-4.2	-7.3	2.7	-7.2	6.0	-11.2	-11.5	-2.8	-4.4	-1.6	0.3	UN
[関西]〃在庫指数(原数値、前年同月比%)	0.3	5.6	6.6	8.2	3.2	4.8	3.9	3.0	5.7	2.8	3.2	UN
[関西]〃出荷指数(季節調整値、10年=100)	102.8	97.9	104.2	100.2	107.2	98.0	93.7	97.6	98.5	98.8	98.4	UN
[関西]〃出荷指数(季節調整値、前月比)	2.2	-4.8	6.4	-3.8	7.0	-8.6	-4.4	4.5	0.9	0.3	-0.4	UN
[関西]〃在庫指数(季節調整値、10年=100)	101.0	105.0	105.0	105.7	102.0	103.6	102.9	103.2	104.2	102.8	105.0	UN
[関西]〃在庫指数(季節調整値、前月比)	-1.0	4.0	0.0	0.7	-3.5	1.6	-0.7	0.3	1.0	-1.3	2.1	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、10年=100)	104.2	101.4	102.7	101.5	103.2	98.6	97.6	98.8	99.8	99.5	95.8	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	1.5	-3.3	1.3	-1.2	1.7	-4.5	-1.0	1.2	1.9	-0.3	-3.7	UN
[全国]〃出荷指数(原数値、前年同月比%)	1.5	-4.9	1.9	-4.5	2.2	-7.3	-7.7	-3.4	3.6	-5.4	-6.5	UN
[全国]〃在庫指数(原数値、前年同月比%)	1.5	3.0	2.5	2.6	0.9	2.6	1.6	1.3	3.6	1.6	2.9	UN
[全国]〃出荷指数(季節調整値、10年=100)	102.8	99.8	102.5	101.2	102.7	98.1	96.4	96.7	97.9	98.9	93.2	UN
[全国]〃出荷指数(季節調整値、前月比)	0.8	-4.0	2.7	-1.3	1.5	-4.5	-1.7	0.3	0.9	1.0	-5.8	UN
[全国]〃在庫指数(季節調整値、10年=100)	103.8	104.7	104.5	104.4	102.9	104.2	103.3	104.2	106.2	104.4	106.4	UN
[全国]〃在庫指数(季節調整値、前月比)	0.4	0.4	-0.2	-0.1	-1.4	1.3	-0.9	0.9	2.1	-1.7	1.9	UN
労働												
[関西]現金給与総額(2府4県、前年同月比%)	0.0	-1.2	0.3	-0.8	-0.0	-0.2	-0.2	-1.0	-0.7	-1.0	UN	UN
[関西]現金給与総額(2府1県、前年同月比%)	0.2	-1.3	0.4	-0.9	-0.0	-0.2	-0.3	-1.2	-0.3	-1.1	UN	UN
[全国]現金給与総額(前年同月比%)	-0.5	0.4	-1.0	-0.1	0.5	0.0	0.1	-0.2	1.0	0.7	0.1	UN
[関西]完全失業率(季節調整値)	2.9	2.7	2.4	2.1	2.5	2.6	2.3	2.3	2.6	2.7	3.1	UN
[関西]完全失業率(原数値)	2.8	2.8	2.6	2.2	2.7	2.6	2.1	2.2	2.4	2.7	3.1	UN
[全国]完全失業率(季節調整値)	2.4	2.3	2.2	2.2	2.4	2.4	2.2	2.2	2.4	2.4	2.5	UN
[関西]新規求人倍率(季節調整値)	2.52	2.44	2.50	2.57	2.42	2.53	2.42	2.58	2.16	2.38	2.38	UN
[全国]新規求人倍率(季節調整値)	2.43	2.36	2.34	2.45	2.28	2.44	2.32	2.43	2.04	2.22	2.26	UN
[関西]有効求人倍率(季節調整値)	1.63	1.62	1.60	1.59	1.59	1.58	1.57	1.59	1.50	1.48	1.42	UN
[全国]有効求人倍率(季節調整値)	1.62	1.61	1.59	1.59	1.57	1.57	1.57	1.57	1.49	1.45	1.39	UN
国際貿易												
[関西]純輸出(10億円)	-9.4	269.9	68.5	120.3	200.7	190.7	110.7	193.5	-126.1	417.0	245.6	54.7
[関西]輸出(10億円)	1,250.9	1,350.3	1,410.2	1,321.5	1,415.2	1,398.4	1,351.8	1,414.4	1,137.7	1,330.0	1,421.9	1,280.1
[関西]輸出(前年同月比%)	-10.4	-10.9	-1.7	-12.9	27.5	-7.8	-10.2	-4.1	-3.6	0.8	-5.2	-5.5
[関西]輸入(10億円)	1,260.3	1,080.4	1,341.7	1,201.2	1,214.4	1,207.8	1,241.1	1,220.9	1,263.8	913.1	1,176.3	1,225.3
[関西]輸入(前年同月比%)	-5.1	-13.8	-0.6	-10.5	30.2	-14.0	-16.5	-5.8	-7.4	-17.5	-4.2	-2.2

注：鉱工業生産 輸送機械工業は銅鉛・鉄道車両除く。

Release Calendar for April/May

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
20-Apr 全国貿易統計 (3月:速報) 近畿貿易統計 (3月:速報)	21-Apr 毎月勤労統計調査 (2月:確報) 建設総合統計 (2月)	22-Apr	23-Apr	24-Apr 出入国管理統計 (2月) 近畿地域 鉱工業生産動向 (2月:確報)
27-Apr	28-Apr 全国貿易統計 (2月:確報) 全国貿易統計 (3月:確・速報) 一般職業紹介状況 (3月) 労働力調査 (3月)	29-Apr 昭和の日	30-Apr 全国鉱工業指数 (3月:速報) 消費動向調査 (4月) 商業動態統計 (3月:速報) 建築着工統計調査 (3月) 中国製造業 PMI (4月)	1-May
4-May みどりの日	5-May こどもの日	6-May 振替休日	7-May 中国輸出入 (4月:速報)	8-May 近畿圏貿易概況 (2月:確報)* 近畿圏貿易概況 (3月:確・速報)* 毎月勤労統計調査 (3月:速報)
11-May	12-May 百貨店・スーパー販売 状況 (3月:速報) 中国 CPI (4月)	13-May 景気ウォッチャー 調査 (4月)	14-May	15-May 公共工事前払金保証 統計 (4月)* 中国工業生産 (4月) 中国消費小売総額 (4月) 中国固定資産投資 (4月)
18-May 近畿地域鉱工業 生産動向 (3月:速報) 商業動態統計 (3月:確報) 中国不動産市場 (4月)	19-May 全国鉱工業指数 (3月:確報)	20-May マンション市場動向 (4月) 出入(帰)国者数 (4月)*	21-May 全国貿易統計 (4月:速報) 近畿貿易統計 (4月:速報)	22-May 毎月勤労統計調査 (3月:確報) 建設総合統計 (3月)

*印は発表予定日が未定。